

◆めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊紹介&感想レポート集

本ラウンドミーティングは、

『めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊』が応援しました！

『めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊』とは、当所からの以下の呼びかけに応じてくれた、本学の学生ボランティア（登録9名）です。

ラウンドミーティング当日までの間、ママ・パパのグループとの企画会議は、計4回。応援隊メンバーは、ときには、会議のためママに連れられてきたキッズたちとたのしく遊びました。また、ときには、企画会議で交わされたママたちのさまざまな発言を書き留めました。

そして、港区近隣の子育てグループここにあり～！のマップを制作しました。

マップは、ラウンドミーティング当日新たに出会いのあった子育てグループを付け加えて完成させました。

●活動内容

- ①ママ・パパたちが企画会議参加中、キッズたちと遊ぶ・見守る
- ②ママ・パパたちとともに港区内の子育てグループのマップづくり
- ③企画会議の運営サポート

●こんな人に来てほしい～

- ・小さな子とたのしく遊びたい人（学内での活動）
 - ・都心での子育てや子育て支援の現状について学びたい人、考えたい人、研究する人
 - ・子育て真っ最中のママ・パパたちから話を聞きたい人
- （ちなみに、ママ・パパたちは学生と仲よくなることをとても望んでいます）

●活動の時期

- ・2月初旬以降、反省会含め、4回程度を予定（平日の午前中心）

●活動期間

- ・市民講座終了後の反省会まで（3月下旬）

●活動の場所

- ・社会学部附属研究所 プレイルーム

●活動から得られるメリット

- ① 遊びを通してたのしい時間を過ごせます。
- ② 港区内の子育てグループマップづくりに参加できます。
- ①②③都心の子育てや子育て支援の現状について、真の当事者から学ばせてもらえます。
- ①②③キャンパス内でボランティア活動に取り組みます。

応援隊メンバー（五十音順）：

浅野航（社会学部） 大森可奈（社会学部）
岡田綾香（法学部） 河合美典（国際学部）
白鳥絵梨奈（心理学部） 辻村剛（社会学部）
長尾菜穂（社会学部） 中根磨美（法学部）
二又川潤一（社会学部）



中根磨美（法学部）

まず、今回のボランティアをして感じたことは、都会で子育てをすることの大変さをお母さんたちの話を通してまじまじと感じました。地方での子育てに比べると地域のつながりが少なそうだなと思いました。私が小さい頃は、近所のお母さん、同世代の子たちとあそびに出かけたりと、お母さん自身もそのようなつながりはある程度安心もあったと思うし、一人で子育てをしているという感じはなかったのではないかなと思うし、また私はおばあちゃんがいつもそばにいてくれたけれど、都会では、地方から出て来た人もいるだろうし、お母さん方もおっしゃっていた子どもを見ってくれる人がいないということにつながるように思います。たまに子どもを見ってくれる人がいなくて、毎日毎日自分の時間がないとストレスなどよりたまってしまっているのではないだろうかと思います。そのようなことを考えると、やはり今回の市民講座では、1つ1つのグループの意見、活動内容などを来てくださった方々、また、会議に参加してくれたグループの方々どうしも発信することができ、少しでも子育てで苦しんでいるお母さんたちが減ってくれたらすごくうれしいことだと思います。また、今回のボランティアに参加しなかったら、ここまでいろいろな活動グループがあることは絶対に知らずに私自身子育てをしていったと思う。正直に言えば、はじめはこのようなグループがあるんだとすごくおどろきました。でもお母さんたちのお話をきいていくうちに、私の子育てに対する考えはあまかったなと思ったし、苦しさも少しわかりはじめ、おどろいた自分に少しはじました。このことを知らずに子育てをしていくのと知っていて子育てをするのとでは、すごくちがうのではないかと感じました。

そして、ボランティアをしておもしろいと思ったことは、保育を担当したときや当日、子どもたちがすごい笑顔で楽しんであそんでくれているのを見たり、子どもたちが答えてくれることは、すごくうれしいことでもあり、自分もこうしよう、ああしよう考えるので勉強になり、おもしろいと思いました。また、私は、子ども関係のことにとても興味があるので、こういう場で自分の意見が言えたり、他のボランティアの子の意見を聞いて、また自分の中で考える。すごく自分のためになったしおもしろかったです。そして、今回のボランティアを通して学んだこと、私がこれからチャレンジしていきたいこと。最近私自身もそうなのかなと思っていた、小さい頃の育て方、お母さんの愛情のかけ方が大きくなってからの子どもにすごく影響するということがわかった。また、他のボランティアのメンバーを見てまだまだ自分にはないものがあると思ったし、この機会がなければなかなか同じような目標をもったメンバーと会うこともなかったのもので、たった一歩ふみだすことでこんなにも広げることができその一歩の大切さを知りました。ほんとメンバーのみんな、平野さん、森さん手伝ってくれた方々に感謝です。これからは、どんどん前にふみだしていった私のやりたい苦しんでいる子どもたちの手助けさせてもらえたらという目標に、少しでも近づけるように人の気持ちのよくわかる優しい人になっていきたいです。そしていつか自分に子どもができたときに、このボランティアを得たことを大切にしていきたいです。

子育て支援応援隊の活動をしてみて

この活動に参加して、春休みがとても充実したものになりました。参加する時少し勇気がいったけど、思いきってやってみて、沢山の人に出会うことができたし色々な意見・考え方を知れてとても良い経験になったと思います。お母さん方との話し合いが終わった後、一人ずつ感想や気づいたことを言う時、私は「楽しかった」とか「すごいなあと思った」とか本当に感想しか言えなかったのが、感想だけではなくて自分の考えとかを話す先輩達をみて本当にすごいといつも感心していました。自分の考えをしっかりと持っていて、感じたことをそれで終わりにしないで深く考え、自分自身の中に吸収しようとするのが大切なんだと思いました。

今まで活動しているお母さんグループがこんなに沢山あるなんて知らなかったのでびっくりしました。元気で活動的なお母さんが多いんだなあって感心しきりで、そのパワフルさを見習っていかなきゃなとしみじみ思いました。将来自分がお母さんになった時、今回知り合えたお母さん達のようにいきいきと輝いていたらいいなと思います。今回参加してくださったグループには障害を持ったお子さんがいるお母さんのグループや、子どもとの関わり方に不安を持っているお母さん達のグループもありました。もしかしたら自分もそういう悩みを持つかもしれないし、どうしたらいいか分からず、今一人で悩んでいる人もいるかもしれません。だから、今回参加していただいて情報を発信してもらえてとても良かったと思います。発信することはとても大きなことだと思います。

お母さん方の話もとても勉強になりました。子育てをしているお母さん達にとっての社会はどんな感じで、どんなことを感じているのかを知ることができて良かったです。子どもに冷たい人が多いと知ってショックでした。私も時々世の中は少し冷たいなあ…と感じます。もっとみんなが温かい気持ちを持った社会になっていったらいいなと思います。せかせか時間に追われ過ぎて、周りの人の事を考える余裕がなさ過ぎるのかもしれないけど、どんな時も人を思いやる気持ちを忘れちゃいけないなと思いました。

また、保育をしてみただけ一緒に遊ぶだけでなく、気をつけなくっちゃいけない事がいっぱいあることと、その難しさを感じました。「あ！危ない！」と思った次の瞬間、テーブルにごっちゃんとなってしまったことがあって、もっとしっかり注意していきなきゃいけないと反省でした。また、お預かりする前にその日の体調や、注意したほうが良いことなどを聞いておくことも大切なんだと思いました。聞いておくことによって、様子がわかりやすく安心して保育が出来たと思います。どの子もみんな可愛くて、一緒にいてとっても幸せな気持ちでした。お母さんの元気さにもそうですが、子どもの元気さにもびっくりです。小さい子は何をやっても楽しそうで、見ている自分も楽しくなりました。

マップ作りは終わるか不安で、前日までやってどうにか間に合いました。完成したときはすごく嬉しかったです。書いていて児童館の多さに驚き、今まで知らなかったところを沢山知ることができました。自分の住んでいる地域にも、もっと目を向けていきたいなと思いました。

今回持つ事ができた繋がりを大切に、どういう形でお手伝いできるか分からないけど、これからもお母さんグループの活動を一緒にやらせてもらえたらなと思っています。まだまだ分からないことも多いけど、これからもっと学んでいきたいです。活動をしていてとっても楽しかったです。みなさんの優しさに本当に本当に助けられました。ありがとうございました。

明治学院大学心理学部心理学科 白鳥絵梨奈

活動に参加して

学生ボランティア 大森可奈

私の母は私が大学に入学した頃から地域で子育て支援活動を始め、私自身も子どもが大好きだったので、地域の中での子育て支援活動ということについて、ずっと興味を持っていました。しかし、子育てにあまり関わることなく普段生活をしているため、自分がどのような形で関わっていけるかわからず悩んでいた矢先、今回の企画に出会いました。

都内で子育てをしている方々のお話を聞き、核家族化が進み、さらに地域とのつながりが希薄していると言われる今日において、子育てをしているお母さん方の多くは、たくさんの悩みを抱えているということがわかりました。また、都内で子育て支援活動を行っている団体の方々のお話を聞きながら活動を進めていく中で、子育てをするということは自分の住む地域とのつながりがとても大切であるということを強く感じました。

今回参加していただいた団体以外にも都内で子育て支援活動を行っている方々はたくさんいるということを知り、とても驚いたのですが、これらが個々に活動するのではなく、つながるということがいかに大切かということも感じました。それぞれに共通する悩みもあれば、違った悩みもあり、お互いがつながりを持つことでよりよい活動にしていけるのではないかと思います。

また、今回の企画に学生ボランティアの一人として参加させていただいて、本当に良かったなあ、と思うことがもう一つあります。それは今回の企画に参加しなければきっと出会うことができなかった多くの人と出会えたということです。学科も学年も違うけれど、子どもが本当に大好きなボランティアメンバー、今まで面識のなかった先生方や大学の職員の方々、そして都内で子育てをしているお母さん方とかわいい子ども達、他にも今回の活動は自分にとって本当に多くの発見と、様々な方々に出会う機会となりました。せっかく出会うことができたので、今回限りとなってしまうと、ここからまたつながりをもっていけたらと思います。

私は先月、明治学院大学を卒業し、現在は横浜にある地域ケアプラザで働いています。仕事では地域に住む多くの人と接する機会があるので、これからも出会いを大切に、その出会いから広くつながりをもっていけたらと思っています。

最後に、今回の活動に参加させていただけたことを本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

↓ 応援隊ミーティング風景



03sg1181 辻村剛

私が社付研の公開講座に参加しようと思ったのは、いろんなまともな理由（子育てと社会について興味がある、など）があるなかで「お、面白そう」という興味本位としか呼べないようなものが一番強かったからでした。幸いにもこの公開講座を通じて、そのときの単なる興味は、私自身の具体的な関心事、問題意識へと、少しずつ芽生えつつあります。

私個人としては、「日本社会は子育てにやさしい社会か？」と問われれば、「やさしくないのではないか」という印象を持っております。

私は遊ぶサークルに所属していました。4月はサークルの新入生勧誘に盛り上がる時期です。「子どもと遊ぶサークルです、子ども好きですか？」とか「ボランティアに興味ありませんか？」と言いながらサークルのビラを配るわけです。すると、「好きじゃないです」、「興味ありません」という答えが残念ながらしばしば返ってくるのです。

まさに文字通りその人が「子どもが好きではない」のかどうかはわかりません。恥ずかしかったのかもしれない。しかし、ここで言いたいのは私の勝手な考え方として、誰もが子ども好きで子育て、教育、地域に興味を持つべきだということです。

もちろん、いろんな考え方が許される自由な時代にこの勝手な考え方を押し付けることはできません。「子どもきらい」「ボランティアなんてやりたいやつが勝手している」という考え方の人がいると思います。いろんな考え方があっていいので、それはそれでいいと思うのですが、私から言わせると、「そんな考え方をしているやつは浅はかくだらない人間だ」という感じです。

私たちは目には見えない多くの人々の支えがあって今があるはずだと私は思っています（もちろん私も知らない何か）。そして、だからこそ社会が成り立っていると思っています。すると、今の大人はまずそれを感じなくてはならない。そして「子どもたちの支え」にならなくてはいけないと思うのです。「子どものこと」や「地域のこと」に少なくとも興味ぐらいはあるべきなのです（実際に活動はできなくとも）。私の勝手な考えですが、ある程度妥当性があると思っています。そんなことにも気づかない人間は独善的で自分勝手です。

もちろんこれはあくまで理想であって、現実にはこううまく循環していかない、いろんな難しさ、問題もあります。まだまだ私は世間を知らないのです。ただ、今回社付研に多くの子育て団体の方々が集まり、学生ボランティアが集まりました。港区に限らずいろんな地域を覗き込めば、さまざまな団体、サークルがあることでしょう。問題はその人たちが自分たちにいま何ができるのか、ではないでしょうか。今回は共通の悩み、課題を共有し、発信することができました。

子どものことを考え、地域のことを考えている人たちはたくさんいる気がします。今回のような「共有し、つながろう」という運動はとても意義深いと感じました。個人的にはこれからこんな感じのことを考えながら、実際、いよいよ自分が大人としての役割を果たす立場になったとき、ここでまとめた考えを忘れないように、実践できればなどと自省的に肝に銘じています。つながり、子育てにやさしい社会を作っていけたらすばらしい。

「ラウンドミーティングに参加して」

今回活動をしてみて一番感じた事はお母さん方は子育てやその他の地域の事について、互いに情報を交換し、思いを共感、共有したいと思っているのだという事です。日々の思いなどを話したり、子育ての情報を交換したりする井戸端会議的な場が必要なのだなと思った。

当日までに何回かミーティングを重ねて、その中で出てきたお母さん方の生の声が聞けてよかった。学生とお母さん方同士で話をするより、子育ての当事者であるお母さん同士が話しをする事で本音が出やすくなったと思う。ただ、お母さん同士も初めての方達が多く、初めのうちは遠慮しあっていた部分もあったと思う。しかしミーティングを重ねていくうちにお母さん方も顔なじみになり、意見交換も活発になったと思う。

今回は子育てマップとして、お母さん方に地域の中にこういった活動拠点があるのかを視覚的に分かりやすく見てもらえるようにマップを作成したのだが、作成をしていくうちに自分もこの地域の中にこういった拠点があるのかが知れてよかったし、これからなんらかの活動をしていく時の参考になった。

今回は「ママ・パパからの発信」という事だったが、パパがいなく男性の意見が聞けなくて残念だった。ミーティングの時間が昼間だったということもあり男性は来づらいのかもしれないが、何かを思っている男性もいると思うのもっと男性側の意見を集める何かをしてもいいのではないかなと思った。最近では子育てや地域、家庭というものに関心をもっている人は多くいると思う、そういった人達をもっと引きずり出して情報を共有する必要があると思う。例えば、今回来ていただいたお母さん方の知り合いのパパや男性に子育てについてのアンケートを実施して意見を集めるというのも可能なのではないかなと思った。今後、そういった、男性へのアプローチもしてみたいと思った。

今回、この講座に参加してみて様々な繋がりができて、これで終わらすのはもったいないと思い、次の活動ができたらいいなと思う。また、学生応援隊として一緒に活動をした皆との繋がりがこれで終わりとしなないでなにかしらの活動ができたらいいなと思う。

学生応援隊 二又川 潤一

↓応援隊 子育てグループマップ制作風景



ラウンドミーティング 学生ボランティア感想 04ks1077 河合 美典

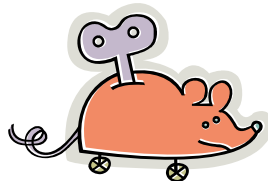
ポートヘボンに載せられた今回の学生ボランティア募集のお知らせを見て、私は直感的に惹かれて応募することに決めた。4回の事前の打ち合わせの中で子育て中のお母さん方の様々な思いをうかがい、これまでとは違った視点で自分が育てられてきた過程を振り返る機会となり、また、学生という時期に子育てについて考える重要性も感じた。子育てをもっと楽しく、地域みんなでやっていこうと精力的に活動されるお母さん方の姿に刺激された。実際に子どものお世話をさせていただくと、本当に楽しくて、彼らから溢れる笑顔とエネルギーをわけてもらった。大切にしたい経験、これからにつなげていきたい学びをこのボランティアを通して得ることができた。

今回は主に、一歳くらいの小さなお子さんの保育をさせていただくことが多かった。彼らは本当に好奇心が旺盛で、周りにあるすべての物に目を輝かせているようだった。安全を守るという面では特に注意が必要で、どれだけ気をつけていても思わぬ場所、物が子どもにとっては危険になってしまうことも実感した。言葉ではなく、身体全体で一生懸命に何かを伝えようとしている彼らのサインは理解するのが大変だった。しかし泣き出してしまったお子さんを見たお母さんが、そのサインを敏感に読み取って対処すると、あっという間に元の元気いっぱいの姿に戻ってしまうので、私はさすがだな、と感心してしまった。

今回の事前の打ち合わせで出された、お母さん方からのお話を聞いていて、知り合いのある女性の話を思い出した。彼女が乳母車で赤ちゃんを連れて、デパートの重いドアを通ろうとしたとき、前にも同じ乳母車をひいた女性がいた。その女性はそのドアを通してから後ろにいる私の知り合いに気づき、一度乳母車を止めて私の知り合いが通れるようにしていた。その最中に、真横を私と同じくらいの年齢の男の子が素通りしていったというお話だった。私はこの話をきいてショックを受けた。彼は周りの世界を見ない、あるいは見えていないのだろうか。

「子育てする人に優しい社会はすべてのひとにとって住みやすい社会」といえるためには、このような私たちの日常生活の中での小さな助け合いがまず根底に必要ではないだろうか。次に通る人のためにドアを少し押さえておく、困っている人がいたら手を貸す、など私たちは「みんなで気持ちよく過ごそう」「助け合おう」という気持ちを持てるようになることが大切だと感じる。そのためには周りの人とのコミュニケーションをもっと丁寧に捉え直したり、自分を他者や社会に開いていける感覚を持つことが大切だと思う。

このボランティア活動を通して出会えた学生みなさんと、男子も女子も一緒に「子育て」について考えてくれたことはとても貴重な体験である。学生はボランティアとして子育てグループさんの活動中の保育に携わることができる。また、将来親になる私たちが、子育て真っ最中のお母さん、お父さんたちの声をきき、そこから大いに学べる。そこで得たもの、考えたことを学生という立場からどんどん発信していきたい。私は子育て支援の現状と課題をもっと勉強していき、自分の目指す子育てと仕事の両立のスタイルを確立させていきたい。



「学生ボランティアに参加して」

法学部法律学科3年 岡田 綾香

私は今回、就職活動と並行してこの企画に参加させてもらいました。活動が終了した今、一言感想を言うならば、「とにかく、楽しかったなあ〜。」この一言です。私は、就職活動であまり参加できず、皆の半分くらいしかお手伝いできませんでしたが、それでも今回思い切って参加させてもらって本当によかったと思います。私がお手伝いした内容は、お母さん方が話し合いをしている間の子供たちの保育と話し合いの記録係です。私は兄弟がいませんし、一人暮らしで、普段大学では同年代の友達としか接していません。ですから、若いお母さん方と子供たちと過ごす時間はとても新鮮なものでした。何と言っても子供たちはやっぱりかわいい！あんなに無邪気な笑顔で見つめられたら、アンパンマンの本だって何回も読んじゃうよ、Aちゃん。（笑）折り紙といえば鶴の折り方ぐらいしか知らない私に、分かり易くやっこさんの折り方を教えてくれた、Mちゃん。みんなみんな、それぞれに素敵なお母さんがあって、子供は大人の成長途中ではない、子供は子供の世界で完成した人なのだと聞いた事がありますが、本当にそうだな、と感じました。また、就職活動を通じ、自分としてもこれからどんな風に生きていきたいのか考える時期に、若いお母さん方とお話しできたことは大変貴重な経験でした。実際子供を育てるとはどのようなことなのか、仕事と家庭の両立は本当にできるのか、様々な疑問や不安がありました。しかし今回、地域でサークル活動をするお母さん方と出会って、仕事を抱えながら子育てをしている方、専業主婦として子育てをしている方、皆さんそれぞれのスタイルで頑張っている方、ということが分かりました。飾らず、子育ては辛いこともあると勇気を持って話して下さった LMG のお母さんもとても正直で、素敵だと思います。子育ての仕方も、生き方も、皆それぞれにあったスタイルで、お母さんだって自分らしく生きたいですよね！お母さんが Happy な社会は、子供たちやお父さん、私たち大学生にとっても快適な社会だと思います。これからも、明治学院から色んなメッセージを社会へ発信し、明治学院を通してたくさんの方が出会い、大きなコミュニティができれば嬉しいです。

平野さん・森さんありがとうございました！



『めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊』制作

港区近隣の子育てグループマップ

「めいがくキッズ&ママ・パパ応援隊」が制作した子育てグループマップを、次ページより掲載しています。

* マップは、4つのエリア順に掲載しました。

- 1) 白金・高輪エリア
- 2) 芝浦・港南・台場&品川エリア
- 3) 六本木・新橋・芝公園エリア
- 4) 赤坂・青山・西麻布エリア

子育てグループマップには、今回活動紹介した9グループやラウンドミーティングで出会ったグループの活動拠点を、赤字で示しました。そのほか、子ども家庭支援センター・児童館・幼稚園・保育園・小学校・区の主な公共施設等が描かれています。

* 本マップの現物は、みなとキッズサポートセンター(浜松町)に展示される予定です。